産業観光
きりゅう紀行 ㉛

産業観光の広域化に役割 三十八か所の鉄道文化財

わたらせ渓谷鐵道

わたらせ渓谷鐵道は桐生駅と栃木県日光市足尾町の間藤駅とを結ぶ44.1キロメートルの第三セクター鉄道、その前身はＪＲ足尾線である。

足尾線は産業鉄道としてスタートを切った。江戸時代初期から採掘が始まった足尾銅山は、埋蔵量が豊富で良質なことから御用銅山として繁栄した。精錬された銅は渡良瀬川に沿って運ばれ、太田市尾島町の利根川から舟運で江戸まで輸送された。利根川までの陸路は「銅山（あかがね）街道」と呼ばれた。

明治に入り、銅の輸送量増大とともに鉄道の敷設計画が浮上、足尾鉄道株式会社が設立され、大正３年（1914）に全線が開通した。同７年に国有化され国鉄足尾線として、銅山開発に威力を発揮、昭和の時代になってからは特に戦後の日本の経済成長に大きな役割を果たした。

日本の経済史、そして公害史にも独自の歴史を刻んだ足尾銅山は昭和48年（1973）に閉山。産業鉄道から沿線の住民の生活路線へと性格を変え、同62年（1987）に国鉄民営化に伴いＪＲ足尾線となり、平成元年（1989）には第三セクターの「わたらせ渓谷鐵道」に生まれ変わった。

わたらせ渓谷鐵道は、その名の通り渡良瀬川の渓谷を遡り、初夏の新緑や秋の紅葉は絶景であり人気が高い。４月から11月までは「トロッコわたらせ渓谷号」が運行される。駅舎へのイルミネーションの飾り付け、無人駅にボランティア駅長の設置、イメージキャラクター「わ鐵のわっしー」の創設など様々な経営努力により観光的にも注目されている。

また、開業当初に建設された鉄道施設（駅舎、トンネル、橋梁等）が数多く現役で活躍、その文化的価値が認められ、38カ所もの施設が国の登録有形文化財となっている。

桐生のノコギリ屋根観光をした翌日にわたらせ渓谷鐵道に乗車するという人達も増えている。産業観光の広域化を図る意味でもわたらせ渓谷鐵道の存在感は大きい。

●わたらせ渓谷鐵道株式会社（みどり市大間々町大間々1603-1　TEL.0277－73－2110）

＊写真はファッションタウン桐生写真コンテスト2007入賞作品
「桜の水沼駅」（田村徳次郎氏撮影）